

## 武田信玄の言葉に

「人は、自分がしたい事をせず、嫌だと思っていることに努力するならば、それぞれ身を全うすることが出来るもの。」というのがある。

この意味は、

嫌だと思っていることとは、自分がしなければならない事の意味である。

先ず、自分の役目を果たす努力をせよ。ということ。

それは、人間は楽な方に物事を流されてしまう生き物だからである。

そうならない為に、嫌なことから逃げ出さずに、工夫して対処して行くことが大切。

その為には、何事も「ケジメ」を付けて行くことが大事。ケジメ＝気締めである。

ケジメには様々なものがある。ありとあらゆる事象にケジメを付けているか。

よくある職場での携帯電話の例として、自分の家族や友人達に勤務時間中は、

用事があるなら、会社へ電話を掛けさせるように、自分が周囲に知らせておく

ことが、ケジメなのである。

決して、会社の営業の仕事でない限り、携帯へ掛けさせることのないよう周囲

へのケジメの付け方を自ら示すことで、相手にもケジメとは何ぞや。を

考えさせることにつながるのである。

これが、親切心なのである。これを言われなくても感じないようでは、

ケジメを付けるということが身には付き兼ねない。

不可能を可能にする工夫・努力をすること。これが、各々の力を付ける基になる。

問答無用の要求から、知恵が湧いて来るもの。

天は、不可能なことは決して要求しないものである。

難しい問題が生じたと感じるのは、実はその人に、それを解く能力があるからこそ、なのである。

「愚鈍だからこそ、モノに成る可能性がある。」

## コミュニケーションの能力を上げる。

一、 話す力とは、ボキャブラリー・理路整然・ウィット・魅力的な声・明朗・堂々  
こういうように、話せるようになりたい。

が、これは現実的でも、実践的でもない。

軽快で、卒の無いしゃべり口の人が、本当に誰からも好かれているか？

言葉明瞭、意味不明瞭では伝わらない。むしろ、朴訥として言葉数は少ない  
が誠意が溢れる話し方をする。

この方が誰からも好かれる。人の心に訴えることが出来る。

誠意を込めた話し方が出来るよう心掛けることが大切。

話す以上に、話し手の態度やクセの方がメッセージとして相手に伝わってしま  
うもの。これは、自分が知らず知らずの内に発信しているメッセージを  
知り、自分の弱点を知り、それを克服することで、好かれる話し方に変えて  
行くことが出来る。性格は、中々変えられない。むしろ、話し方を先に変え  
て、性格は後から少しずつ話し方に近付けて行くように心掛けること。

## 二、話し方で改めるべきルール

例として、

「どうせ」・・・やる前から諦めている言葉。

人生は思い通りには行かない。だからこそ、挑戦する価値がある。

最初から諦めている人と一体誰と一緒に仕事をしたいと思うだろうか。

「一応」・・・自信の無さから来る言葉。

逃げ道を用意しておきたいと思う心の弱さから来る。

「許せない」・・・相手に対して、こうあるべきだ。という固定観念があり、不満を言っているのと同じ。

「ですから」・・・相手の話しを聞くより先に、自分が考えていることで頭がいっぱい。自分の番を今か、今かと待ちわびている状態。

「けど」・・・言い訳ばかりで、人生に有意義なことを中々始められない人。一日を自分の為に有意義且つ効率的に使うことが出来ている人は、子供の頃の夏休みの一日と同じくらい、長く感じる事が出来ている。

## 三、ビジネスの能力を上げる会話。

会話の目的は、何なのか。を強烈に意識することが必要。ビジネス会話の基本は、相手が聞きたい順に、聞ける量を相手の立場でポジティブに話す。

相手がこちらの話を受け入れてくれるケース

1. その話しを受け入れると、快い状態が実現するもの。
2. その話を拒否すれば、不快な状態が遭遇するもの。
3. 話をしている人に好感を持っている。

話し手の話が相手にとって「快」か「不快」かが、分かれ目となる。

どんな一方的な話でも相手の利益を生むもの。自尊心をくすぐるものは快。

下手な説明。謙（へリクダ）り過ぎて嫌味にも聞こえる話。人の時間を奪う長すぎる話は不快。

相手の不利益を回避するところの説明は、ゆっくりと強調して説明することが重要。

上司に悪い情報報告をしなければならない時、相手（上司）の利益を考える必要は無い。悪びれず、誠心誠意説明を尽くすこと。こちらに非があれば、素直に謝るべし。多くの情報を伝えれば良いというものでは無い。

相手が話を聞ける量も考慮することが必要。

相手が黙って聞いていられる時間は30秒である。

これを過ぎると、突っ込みを入れたくなるか、反論の為の理論武装を始めるようになる。30秒で一旦言葉を切る。話しのつなぎ目を工夫する。

予め、話の順番、構成を工夫する必要がある。

## 「長く生きることに対する疑問」

若さ、健康が重圧になって来る。「年寄り」＝どこか具合が悪い。というもの。

具合が悪いというのは、老化が進むから徐々に具合が悪くなるだけのこと。

老いを病に摩り替えてしまうところに問題あり。

老いは一方通行であり、その先は死しかない。なのに、病だと捉えると回復を期待してしまう。

大事なことは、1. 医療に頼り過ぎず。

2. 老いには、寄り添い。

3. 病には、連れ添う。という捉え方。

死ぬには「老衰」が一番だが、病なら「癌」が良い。

理由は、周囲に死に行く姿を見せることが出来るから。

生まれた人間の最後の務めが「死に行く姿」を見せること。

最後まで、意識が清明で、意思表示が可能だから。

癌の3割は、痛まない。

逝き方は、生き方である。